経済・産業分析シリーズ

新金融産業としてのプライベートバンキング
～求められる経営戦略・アジアのスイスを目指して～

米　田　　隆

目　　次

1．スイスのプライベートバンキング（PB）業務の発展の歴史に学ぶ
2．日本のPBビジネスの環境
3．日本のPB業務の課題
4．金融機関の取るべきPB戦略
5．終わりに：PB業務が日本経済に生み出すべき価値

プライベートバンキング（以下PB）の中核の１つは同族系企業オーナーであり、その富の源泉は、一族事業そのものである。金融資産は富の結果に過ぎず、数世代にわたり一族資産を保全・承継するには、富の源泉たる一族事業の維持・強化が不可欠となる。グローバルな競争にさらされる一族事業を企業価値経営とファミリー・プランニングの両面で支援することが、競争力維持の観点から今強く求められている。

こうした一族事業の発展も視野に入れた先進的PBのアプローチこそ顧客が求めているものであり、日本の法整備いかんによっては、わが国のPBサービスは広くアジアの富裕層をも惹きつける成長金融分野になる可能性を秘めている。

1．スイスのプライベートバンキング（PB）業務の発展の歴史に学ぶ

⑴　スイスでPBサービスが発展した４つの基礎要因

スイスのPBビジネスの発展を論じる上では、スイス金融市場が非居住者の預かり預金の受け入れ先としていわばオフショアセンターとして発展してきた歴史に触れざるを得ない。筆者は市場発展の背景には次の４つの要因があると考えている。

第１が政治的要因である。スイスの持つ永世中立国という国際政治におけるユニークな地位は、海外から資産の安全な預け先として価値あるもの

米田　隆（よねだ　たかし）
㈱グローバル・リンク・アソシエイツ代表取締役。1981年早稲田大学法学部卒業。85年米国フレッチャー法律・外交大学院修士号取得（国際金融法務専攻）。81年４月㈱日本興業銀行入行。91年グローバル・リンク・アソシエイツ設立、代表取締役就任、99年エル・ピー・エル日本証券株式会社（現・PWM日本証券株式会社）代表取締役、2010年６月同社会長退任、現職復帰。主な著書に『世界のプライベートバンキング入門』（ファーストプレス　2008年）他、日本証券アナリスト協会プライベートバンキング教育委員会委員長、ファミリービジネス学会理事、慶應義塾大学キャリア・リソース・ラボラトリー上席研究員。

©日本証券アナリスト協会　2013